

館の使命	房総のむらは、伝統的なくらしや道具、ものづくりの技を保存・継承し、新たな価値を見出し、展示や体験を通して歴史や文化を学ぶ博物館を目指します。歴史や自然を愛する心を育み、伝統文化の理解や学習、地域づくりを支援します。
------	---

事業名	教育普及事業 ①参加体験事業
概要	団体体験の評価アンケートに基づく改善事業

評価項目	視点例	目標・指標	実施内容	結果・成果	今後の課題	所見・指摘事項
①事業目的	・本事業の目的、企画の狙い等は、館の使命及び県民ニーズに照らし適切に設定されているか	・本事業を通してより多くの学校に、本館の取り組みを理解してもらおうとともに、教職員の意見を参考に、より充実した体験内容を企画し、実施する。	・団体体験を通して、より多くの学校に、本館の取り組みを理解してもらおうとともに、引率する教職員の意見も取り入れている。	・児童・生徒ひとりひとりが、実際に昔の暮らしや技術を体験し、団体体験の目標を達成できている。	・教科の授業に活かすのは難しいという意見が少なくない。この点について引率教員と話し合う場が必要である。	【加藤】 豊富で永年作り込んだ体験メニューは、分りやすく様々な工夫が凝らされ、児童・生徒から好評であることは高く評価できる。今後、1メニュー当たりの受け入れ人数拡大のために、複数会場での同時開催など、ニーズに対応した工夫を加えていただきたい。企画展「千葉の鍛冶」は、館の使命に即した好企画であった。会場の「風土記の丘資料館と「ふるさとの技体験エリア」との情報連携を今後検討していただきたい。 【飯田】 ・体験現場を見せていただきました。体験自体が面白くて物事に興味を抱くフックになると良い。 ・「千葉の鍛冶」が学校団体に相応しいか？とも言える。企画展は内容によって情報発信先が違うのではないかと。
		・学校の団体体験を通して、房総の伝統的なくらしや道具、ものづくりの技に興味・関心をもってもらう。	・学校の授業にはない「ものづくり」を体験することによって、児童・生徒に伝統的な暮らしを実感してもらう。	・児童・生徒が個別に作り上げるので、達成感があり、作品に愛着を持っている。引率教職員の理解も深まっている。	・一度に体験できる人数を増やしてほしいという希望が出ており、体験場所などの調整が課題である。	
		・展示されている実物資料などを見たり直接触れたりして、児童生徒の理解を深められるようにする。	・団体体験によって、より多くの学校に本館の展示内容を理解してもらっている。また、教職員の関心も高まってきている。	・企画展「千葉の鍛冶」は好評で、10月・11月の会期中に8,027人の入場者があった。しかし、学校団体としての見学は、83人とどまった。	・学校団体への企画展の案内が不十分であったようである。	

<p>②事業内容</p>	<p>・目的・ねらいを正しく反映する工夫がなされているか</p>	<p>・ 昨年の教職員研修で団体体験を経験した教職員に、研修に関するアンケートを実施し、本館の取り組みについて教職員の意見を聴取した。</p>	<p>・ 引率する教職員が、団体体験の内容を追体験する場を設定したことによって、本館の事業に対する教職員の具体的な意見を聞くことができた。</p>	<p>・ 団体体験を行う項目（演目）を選択するのに役立ったという意見が多かったが、実際の授業には盛り込めなかったようである。その理由として、①研修時には既に次年度のカリキュラムが決まっている、②生徒数が多いため研修時に多人数枠の体験申し込みが締め切られているなどが挙げられる。</p>	<p>・ 予約申し込みの日程について、再度呼びかけて調整するなどの働きかけが必要である。</p>	<p>【加藤】 館の努力は認めるが、①電話または総合案内窓口での直接申し込み、②1ヶ月毎での予約空き状況の公表、③4半期毎の受付開始、が学校現場のニーズへの柔軟さに欠けているのではないかと。さらに、体験メニューのインバウンドへの提供を視野に入れば、「体験演目・スケジュール」のカテゴリーについては、システム化を進めネットでの対応を検討いただきたい。</p>
<p>③満足度</p>	<p>・ お客様は、満足してくれたか</p>	<p>・ 引率教職員、児童・生徒に体験の最後に満足度、理解度についてアンケートを実施する。</p>	<p>・ まとまった団体体験として、勾玉づくり・畳のコースター作りを中心に、団体体験の都度アンケートを実施した。</p>	<p>・ 児童・生徒が説明・指導内容をどのように理解しているか把握し、体験内容の改善点を見いだすことができている。</p>	<p>・ 僅かではあるが、説明をあまり理解できなかった生徒がいた。どのような点がわからなかったか明らかにしたい。</p>	<p>【加藤】 ・ 体験中の児童生徒の表情からも、満足度が高いことは十分に理解できた。 【飯田】 ・ 体験だけに限らず、全体的な満足度上げる努力をスタッフ全員で取組みながらスタッフのモチベーションアップに繋げて欲しい。</p>
		<p>体験内容や方法などの説明について、児童生徒の印象に残ったことを問いかけ、教職員にはさらに体験内容の要望について設問している。</p>	<p>左記の設問を盛り込んだアンケートを児童・生徒、引率の教職員に実施した。</p>	<p>参加した児童生徒の91%が、とても楽しかった、8%が楽しかったと答え、体験内容に満足していることがうかがえる。</p>	<p>説明方法に工夫や改善の余地がある。</p>	
				<p>体験内容の説明については、児童生徒の96～97%が良く分かった・わかったと回答しているが、1～2%はあまり分からなかったとしており、無回答が3%、未定出が1%見うけられた。</p>		

④運営	・費用対効果の高い効率的な運営がなされていたか。	・毎年、教職員を対象として当館利用のための研修を行っている。今年度も、一人一件ずつ体験に参加する内容を盛り込んだ。	・今年度は夏休み期間に2回実施し、34名の参加があり、団体体験を実施した。	・来年度の学校団体体験に向けて、本事業への理解を高めることができた。	・来年度の団体体験について、今年度中に打診などの働きかけが必要か。	【加藤】 ・効率的な運営に取り組む館の姿勢は評価できるが、体験に参加する学校に地理的な偏りが見られることから「出前研修」の必要性が感じられた。また、ネットによる申し込み期間を長期化し、年間を通して予約できるようにするなどの工夫をお願いしたい。 【飯田】 ・早期に電話以外の予約申し込みが出来るようにすべきと考えます。 ・アンケートから施設・運営面の課題を恒常的に掘み、解決に繋げるように願いたい。
		・授業に結びつけられる内容や工夫・ヒントを提示できるようにする。	・昨年度の研修アンケートを分析した。	・昨年度の研修アンケートを見る と、学年によっては授業に結びつけるのが難しい状況にあることがわかった。	・授業に活かすためには、学年ごとのカリキュラムとの関係を検討し、工夫が必要である。	
		・商家・農家・風土記の各エリアによって、内容や所要時間が異なるため、相互に調整している。	・各エリアのアンケート調査を照合して今後の参考にしたい。	・商家や農家の体験所用時間は演目によって異なり、風土記の1時間半の体験との組み合わせが難しい。	・茶道体験など人数に限りがある体験もあり、所要時間とともに人数の配分にも検討の余地がある。	
		・団体体験予約のシステムを簡略化できないか、検討する。	・現在の団体予約システムでは、最初に申し込む学校が選択した演目によってその日の演目が決まっている。そのため、希望日に何が体験できるかわからないという意見をいただいている。	・1年間の体験数の実績等を参考に、日々の団体体験の日程を4月当初から組めるよう検討している。	・現行では、9:00~17:00の電話予約に限られているが、メール・FAXなどによる時間外予約できる項目について検討する。	
		・回答率を高めるため、選択項目を主体にし、分析効率を高める工夫を凝らしたアンケート調査を実施している。	・児童生徒の体験アンケートはその場で回収し、教職員についてはFAX等で後日も受け付ける方式をとっている。	・児童・生徒は99%、後者も90%以上の回収率である。本事業の内容改善事業にきわめて有効と思われる。	・次年度もアンケートを実施し、より具体的に問題点を引き出した。	

総合評価

【加藤】

館の使命に添った活動と創意工夫は高く評価できる。さらに、ネットでの体験予約のシステムを組み上げると共に、ホームページのスマートフォン対応にも考慮し、利用団体の地理的な偏りの解消と、インバウンドへの対応をお願いしたい。また、企画展「千葉の鍛冶」は館に相応しい企画で、内容についても高く評価できる。他館での開催や、展示物の「ふるさとの技体験エリア」にある鍛冶屋での展示などに応用して、千葉県の農業文化についての県民の理解を深めていただきたい。可能であれば、充実してきた「ミュージアムショップ」での「鎌」の展示販売もあれば、ショップの充実と鎌製造者の意欲向上にも繋がるのではないかと。

【飯田】

事業の目的は教育的施設・・・としても、運営面では常にお客様目線で考えることが魅力ある施設づくりにはかかせず、又、リピーター化を図る上では重要な点です。何を生業とした店か？一階は体験だけとせず見るコーナーに工夫を加え二階に上がって貰えるように全体的に見せ方を再検討願いたい。また、総屋も施設全体の案内施設としては総じて寂しくこちらも見せる工夫を加えるべき。お店の商品は種類・数とも全く少ない。隙間ばかりのお店で買い物をするだろうか？たくさんの商品を置くことが教育上どうか？ではなく、来てくださるすべてのお客様へのサービスとなるはず。

対 応

ネットでの体験予約システムについては、広報・普及課の課題として検討しているが、どのようなシステムが適用できるか、業務委託の是非など専門家の指導・協力を得て進める。AR（拡張現実）を搭載した多言語ガイドブックとプロモーションビデオを作成し、インバウンドへの対応を進めている。また、農業県としての千葉県の伝統を見直す企画として、「江戸野菜プロジェクト」を実施している。房総のむら・農業従事者（生産者）・周辺の高校（下総高校・成田西陵高校）・ホテル日航成田（レストラン）とタグを組んで伝統的な野菜の復元と利用のデモを実施し、好評を博している。これらは、来年度も継続して実施する。

商家の街並みは、確かに何を生業としているか分かりづらいので、表示の工夫と2階の効果的な利用を考えたい。総屋の売店では、鎌・包丁・小刀などの刃物や雨城楊枝などの伝統的工芸品のほか、本館のオリジナル商品もを販売しているが、品揃えと商品の配置などに工夫を凝らし、来館者の購買意欲を高める努力をする。